



事業者達成状況報告書

令和7年7月14日

鳥取県知事 平井 伸治 様

届出者 住所

大阪府大阪市道修町3丁目4番7号

氏名

日圧スーパーテクノロジー株式会社

代表取締役社長 吉村 正雄

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

鳥取県地球温暖化対策条例第8条第5項（第9条第3項）の規定により次のとおり提出します。

住所（主たる事業所の所在地）	鳥取県倉吉市秋喜243-1						
氏名（名称及び代表者の氏名）	日圧スーパーテクノロジー株式会社 代表取締役社長 吉村 正雄						
主たる業種	28 電子部品・デバイス・電子回路製造業						
該当する事業者要件	☒ 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号に該当する特定事業者 ☐ 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号に該当する特定事業者 ☐ 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第3号に該当する特定事業者 ☐ 特定事業者以外の事業者						
計画期間	令和4年4月 ～ 令和7年3月						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （令和3）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （令和6）年度 （二酸化炭素換算）	増減率	報告年度（実績） （令和6）年度 （二酸化炭素換算）	増減率	
	排出量（1）	12,725.0 t	12,343.0 t	△ 3.0 %	10,234.3 t	△ 19.6 %	
	実績に対する自己評価	生産条件変更によるヒーター等の電力削減、生産効率化活動、モーターなどのインバーター化、照明設備のLED化などの活動を推進したことによる成果、及び主要エネルギーとする電力のCO2排出係数（中国電力）の低下					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率	報告年度（実績）	増減率
	西倉吉工場	二酸化炭素換算 修正売上額	61 t-CO2/億円	59 t-CO2/億円	△ 3.3 %	52 t-CO2/億円	△ 15.1 %
	西倉吉工場	二酸化炭素換算 売上額	87.2 t-CO2/億円	84.6 t-CO2/億円	△ 3.0 %	74.2 t-CO2/億円	△ 14.9 %
		二酸化炭素換算			%		%
	実績に対する自己評価	コロナ禍での生産減から、生産復調により、原単位の良化					
寄与的取組	取組区分	目標年度（計画）		報告年度（実績）			
		実数値	二酸化炭素換算の削減量	実数値	二酸化炭素換算の削減量		
	再生可能エネルギーの利用 による電力又は熱の供給	(発電量) kWh (熱供給量) GJ	t	(発電量) kWh (熱供給量) GJ	t		
	再生可能エネルギーの利用 による二酸化炭素の排出削減 の量等を表すものの購入	(購入量)	t	-	t		
	森林保全による二酸化炭素 の排出削減の量等を表すもの の購入	-	t	-	t		
	電気、ガスその他のエネルギー の使用の合理化による 二酸化炭素の排出削減の量 等を表すものの購入	(購入量)	t	(購入量) GJ	t		
	削減量等合計（2）		0 t		t		
差引排出量（1）－（2）	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	12,725.0 t	12,343.0 t	△ 3.0 %	10,234.3 t	△ 19.6 %		
推進体制	環境管理責任者及び環境事務局を中心に、各部署の環境マネジメントを推進する目的で選任された環境委員で構成された環境委員会を定期的に開催し、環境パフォーマンス及び各種環境活動の推進状況のフォローを実施している。 環境委員会にはエネルギー管理企画推進者及びエネルギー管理者も参加し、省エネに関する活動の推進を図っている。						
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	内容				
	令和4～6	空調設備	省エネタイプへの更新				
	令和4～6	照明設備	LED照明への変更による省エネ				
	令和4～6	生産設備	生産性向上でムダを省きエネルギー使用を削減				

地球温暖化対策に資する社会貢献活動	・従業員通勤車のアイドリングストップの推進 ・環境月間に合わせて、省エネに関する情報を展開して啓もうを図る ・小集団活動で生産性向上を行ない、効率化生産を推進
特記事項	・特になし

注1 該当する口には、レ印を記入してください。

2 本計画書における温室効果ガス排出量は地球温暖化対策の推進に関する法律第21条の2第3項に規定する「温室効果ガス算定排出量」の算定方法と同様の方法により算定した量をいいます。

3 本計画書は鳥取県内における事業活動について記載してください。

4 主たる業種には、統計法（平成19年法律第53号）第2条第9項に規定する統計基準として定める日本標準産業分類のうち中分類を記入してください。

5 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。

6 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。

7 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達を採用などを記入してください。